

科目ナンバリング		U-LAS61 10002 LJ14									
授業科目名 <英訳>	環境学 Environmental Studies					担当者所属 職名・氏名	エネルギー科学研究科	教授	川那辺	洋	
								環境安全保健機構	准教授	角山	雄一
							環境安全保健機構	教授	平井	康宏	
							環境安全保健機構	准教授	矢野	順也	
							生態学研究センター	教授	中野	伸一	
							防災研究所	教授	榎本	剛	
							農学研究科	准教授	小林	優	
							地球環境学舎	准教授	TRENCHER, Gregory		
							人間・環境学研究科	准教授	萩生	翔大	
							地球環境学舎	教授	西前	出	
群	統合科学科目群				分野(分類)	環境				使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)				
開講年度・ 開講期	2026・前期		曜時限	月2		配当学年	全回生	対象学生	全学向		
[授業の概要・目的]											
<p>環境問題は、危急の世界的課題として、広く認識されているが、日本においては、公害問題等は一定解決し、日々の生活では実感が薄くなってきている。他方、多くの途上国では、地域及び地球の環境問題が同時に深刻化し、暮らしの持続可能性を脅かすに至っている。それらの実態を把握した上で、様々な視点で環境問題に対応することは、特に、本学で学び、将来社会において活躍する学生のみなさんにとって、必ず求められるものとなるだろう。</p> <p>しかし、環境問題は、その背景やメカニズムを含め、非常に多くの要素が絡み合ったものであり、正確に問題の所在を理解し、解決に向けた対策を打つことは、簡単ではない。さらに、様々な情報や視点が存在するため、時に相反する選択肢がある中で主観的・客観的に物事を判断していくことを求められるケースもあるだろう。</p> <p>そのような状況で重要と考えられるのが、地球や自然、人間や社会の成り立ちにまで根ざした知識や思考力、それらをベースに環境問題の実態を把握する能力やセンス、そして過去や他の事例を学びつつ環境問題の解決を目指す想いや力などである。</p> <p>そこで、環境問題について俯瞰的に学ぶ機会となるような講義を行う。環境問題に関する基礎的知識を身につけるため、各論を学ぶにあたっての導入的な位置づけとしてなど、文理問わず、多くの学生のみなさんの環境問題の理解や関心につながる内容を目指す。</p>											
[到達目標]											
<p>環境問題を考えるための基礎知識として、地球や自然のなりたちと人間との関係、世界の環境問題の実態について俯瞰的に理解する。また、環境問題に対応するための思考力や判断、行動につながる視点として、環境問題解決に向けたアプローチや実践例を理解する。</p>											
[授業計画と内容]											
講義順序は都合により前後することがある。年度当初の予定は初回講義時に連絡する。											
<p>1. 環境問題を俯瞰する 環境問題の全体像、地球と地域からみた環境問題の構造(2回・平井康宏)</p> <p>2. 「地球・自然・生態」について学ぶ 【1】自然の構造と仕組、気候変動(2回・榎本剛) 【2】海・湖と環境、水圏化学(1回・中野伸一)</p>											
----- 環境学(2)へ続く -----											

環境学(2)

3. 「人間の身体活動と環境」について学ぶ

人体と身体活動の環境適応とその諸問題、地球から宇宙まで（1回・萩生翔大）

4. 「技術・ハード面」からのアプローチ・実践例を学ぶ

【1】エネルギー資源、エネルギー利用（2回・川那辺洋）

【2】農業生産と環境（1回・小林優）

【3】リスク、放射線と人間・環境（1回・角山雄一）

5. アジアやアフリカ地域における環境問題を学ぶ

【1】アジアやアフリカ地域における一次生産をめぐる環境問題（仮）（1回・西前出）

6. 環境問題解決に向けた環境政策や実践例を学ぶ

【1】脱炭素と持続可能性の推進に向けた政策とイノベーション（1回・Gregory Trencher）

【2】大学の環境管理、環境教育、ライフスタイル、実践者から学ぶ（2回・矢野順也）

7. フィードバック（1回）

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

講義中に、小テストもしくはレポート提出を課す。提出方法は、LMSを通じてまたは講義中に配布したレポート用紙の回収等の方法による。14回の小テスト・レポートの平均点を成績とする。未提出の小テスト・レポートはゼロ点として扱う。小テスト・レポートに関する詳細については、それぞれの教員から講義中に指示がある。

【教科書】

京都大学で環境学を考える研究者たち『環境学』（朝倉書店）ISBN:978-4-254-18048 C 3040

【参考書等】

（参考書）

適宜、各講義にて紹介する。

【授業外学修（予習・復習）等】

授業時間内での理解と論考を行うことを基本としつつ、提示した参考書による復習を推奨する。

【その他（オフィスアワー等）】

この講義は、関係分野の本学教員の協力を得て、本学の環境安全保健機構環境管理部門が文系・理系学生の環境教育の推進のために開講している。

【主要授業科目（学部・学科名）】